



(今週のメニュー)

1. “TAC”活動レポートについて (J A群馬担い手サポートセンター)
2. 発生予察情報 平成28年度病害虫発生予察情報第8号(11月予報)
(J A群馬担い手サポートセンター)
3. 園芸販売課情報 青果物の市場概況について (園芸部 園芸販売課)
4. 肥料農薬課情報 土壌診断による適正施肥について (別添) (生産資材部 肥料農薬課)
5. 気象情報 (J A群馬担い手サポートセンター)

1

“TAC”活動レポート

「TAC管理者先進地視察研修会」について

(発信部署：J A群馬担い手サポートセンター)

11月10日～11日、7JA16名の参加を得て「TAC管理者先進地視察研修会」を開催した。

昨年までは「TACパワーアップ大会における優良事例優秀表彰JA」を視察していたが、担い手サポートセンターが設置された初年度であることから部門別の研修先として、トマト40t/10a収穫を達成した「全農実証農場・ゆめファーム全農」、米麦・畜産関係の研修は「東日本くみあい飼料鹿島支店・全農サイロ」、買い取り直販施設の「全農いばらぎ県本部の県西VFステーション」と盛りだくさんの研修会となった。

あいにくの悪天候とタイトなスケジュールであったが、参加したJA管理者はそれぞれの研修場所で積極的な質問と意見交換を行い、非常に有意義な研修会となった。



視察の様子「全農実証農場・ゆめファーム全農」

2

発生予察情報

平成28年度病害虫発生予察情報第8号(11月予報)(別添)

(発信部署：JA群馬担い手サポートセンター)

内 容：

群馬県農業技術センターより、表題の件について連絡がありましたのでお知らせします。

以下のURLよりご確認ください。

○群馬県HP 病害虫発生予察情報一覧

<http://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html>

群馬県農業技術センターより、表題の件について連絡がありましたのでお知らせします。

3

園芸販売課情報 青果物の市場概況について

(発信部署：園芸部 園芸販売課)

内 容：

品 名	10月31日～11月5日		11月7日～11月12日	
	高値	安値	高値	安値
ほうれん草 (200g)袋	173	86	184	86
むきねぎ (5kg)DB	2,160	540	2,700	756
しゅんぎく (150g)袋	130	86	130	86
にら (100g)束	92	54	92	54
ブロッコリー (4kg)DB	2,376	1,404	2,376	1,404
チンゲンサイ (300g)袋	86	54	97	54
きゅうり (5kg)DB	3,780	1,080	3,780	1,080
トマト (4kg)DB	2,808	1,080	2,592	1,080
大和芋 (4kg)DB	4,320	1,620	4,320	1,620
生椎茸 (100g)トレ	151	65	151	65

4

肥料農薬課情報

土壌診断による適正施肥について（別添）

（発信部署：生産資材部 肥料農薬課）

内 容：

土壌診断で土の健康管理と環境にやさしい適正施肥を行いましょう！！

I 土壌診断の必要性について

近年農業活動による環境への負荷が問題視されますが、その主な原因に「過剰な施肥」や「作物が吸収しきれなかった肥料分の残存」が挙げられます。そこで、土壌診断を通して土壌の状態を正確に把握し、肥料の必要量を知ることにより、効果的かつ効率的な施肥が可能になります。また、肥料成分が土壌に残っているようであれば、次回の施肥量を軽減させ、生産コストを削減することもできます。適正施肥で、収量と品質を向上させましょう。

II 分析の内容

現在行われている土壌分析には、「一般分析」と「特殊分析」の2種類があります。

「一般分析」は、pH・EC・石灰・苦土・加里・りん酸の6項目が1セットとなっており、その分析結果は六角形のチャートで表記されます。同時に各6項目のバランスを考慮した施肥設計が診断票に掲載されます。

「特殊分析」は、「一般分析」項目に含まれない硝酸態窒素やアンモニア態窒素、CEC など全16項目があります。「一般分析」に加えて「特殊分析」を行うことで、より細かな土壌の状態を知ることができます。特に CEC（保肥力）は、塩基バランスを算出する元になりますので分析項目に追加することをおすすめします。

※詳細は別添資料をご覧ください。

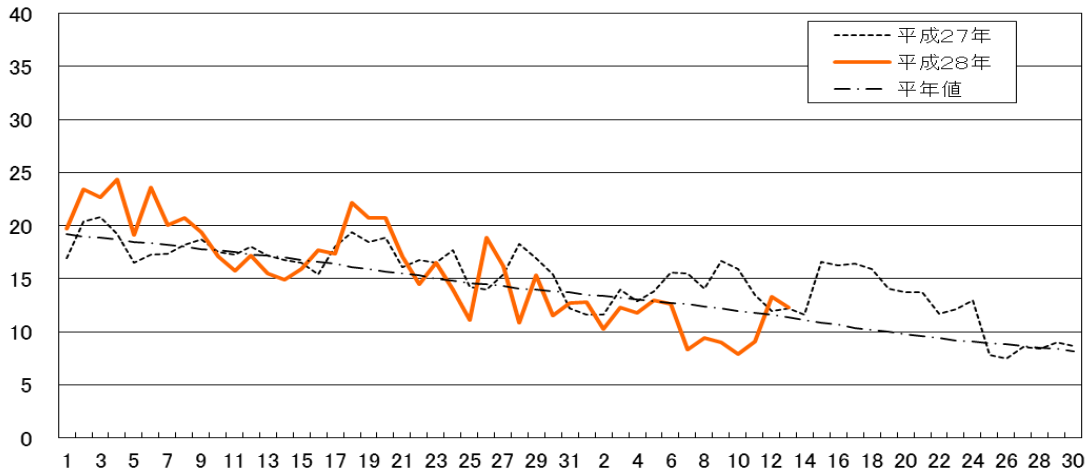
5

気象情報

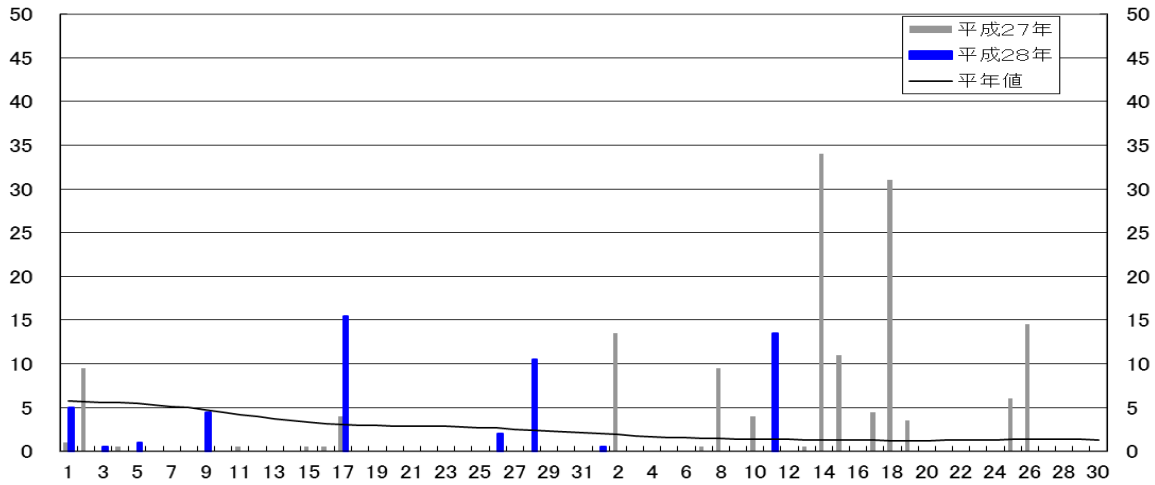
(発信部署：JA群馬担い手サポートセンター)

内容：気象経過（前橋气象台 標高112m）

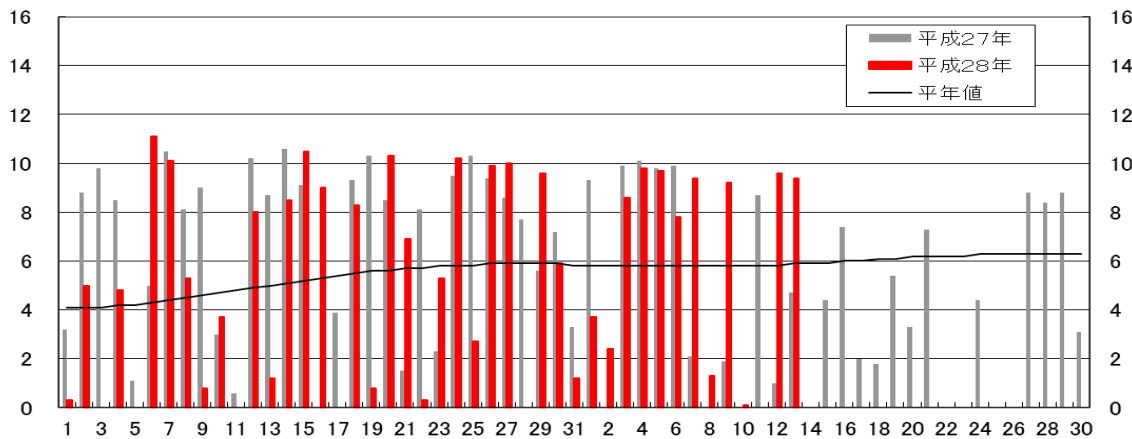
平成28年10月－11月 平均気温(°C)



平成28年10月－11月 降水量(mm)



平成28年10月－11月 日照時間(h)



JAみどりの風 放送予定

本放送：月曜日 21時00分～21時30分

再放送：日曜日 8時00分～8時30分



<今週の放送予定>

(第1233回) 「酪農畜産フェスティバル」

放送日：11月14日（再放送日：11月20日）
内容：JA群馬乳販連より、11/29、30に群馬県畜産試験場などで開催された「酪農畜産フェスティバル」の様子をご紹介します。

<次週の放送予定>

(第1234回) 「豊かな食卓を演出！」

放送日：11月21日（再放送日：11月27日）
内容：JA高崎ハム（株）より、ハムやソーセージのこだわりの生産の様子やJA高崎ハムのおすすめ商品などをご紹介します。

農家の皆様へ **土壌診断で土の健康管理と 環境にやさしい適正施肥を!!**

分析による土壌の健康管理

●土壌の一般分析: pH・EC・石灰・苦土・加里・りん酸 (6項目)

pHとは?

土壌が酸性であるか?アルカリ性であるか?の判定です。作物によっては酸性を好むもの、アルカリ性を好むものがあり、作物にとって最適なpHに土壌を改良する必要があります。

ECとは?

土壌中に含まれる塩類(硝酸態窒素等)の蓄積の目安になる数値です。ECにより施肥時期・量を決定することができます。

石灰とは?

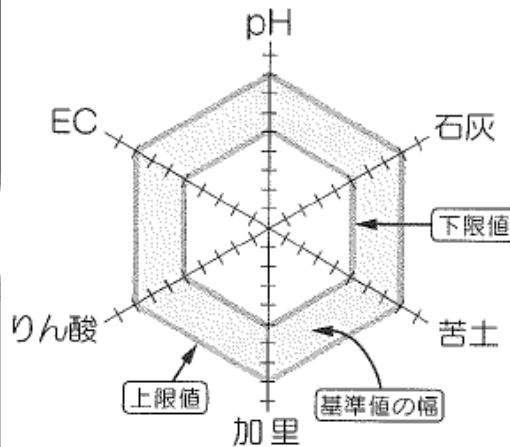
土壌が酸性に傾くのを、アルカリ効果で修正するのが石灰ですが、多過ぎるとアルカリに傾いてしまいます。

りん酸とは?

作物体のエネルギー代謝に中心的役割を果たし、根の発育や開花・結実に重要な働きをします。特に施設土壌では過剰傾向がみられます。

苦土とは?

作物体の葉緑素を形成する成分で、不足すると下葉から葉脈に沿って黄化します。光合成に必要な不可欠なものです。

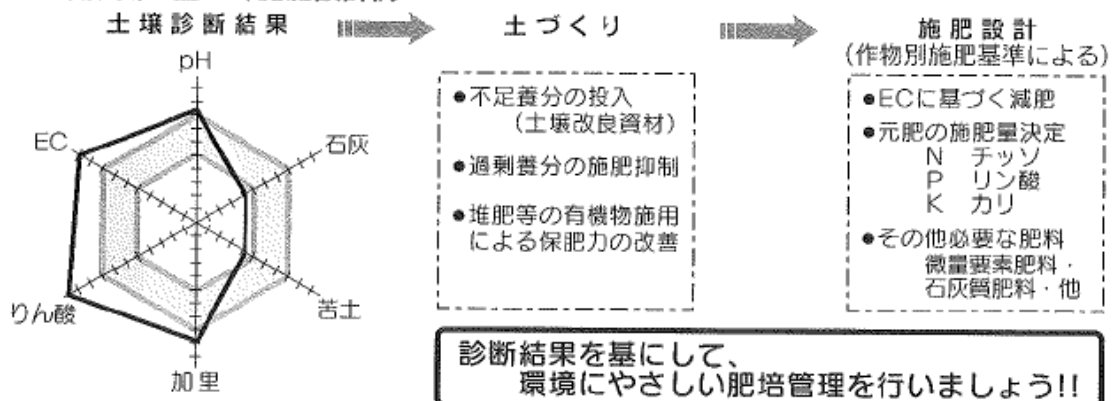


加里とは?

作物の生長を促す成分で、デンプンなどの炭水化物の蓄積に関係します。加里が過剰になると、他の養分吸収を阻害し、作物の生育不良につながります。

※各項目の基準値は作物ごとに設定してあります。

●土壌診断に基づく施肥設計例



分析の種類

区分	種類	分析項目
一般分析	土 壤	pH・EC・石灰・苦土・加里・りん酸(6項目で1セット)
	水 耕 培 養 液	pH・EC・アンモニア態窒素・硝酸態窒素・りん酸・石灰・苦土・加里・ナトリウム・塩素・硫酸(11項目で1セット)
特殊分析	土 壤	硝酸態窒素・アンモニア態窒素・可給態窒素・全窒素・腐植・CEC・りん酸吸収係数・可給態ケイ酸・可給態鉄・交換性マンガン・亜鉛・銅・ホウ素・仮比重・三相分布
		線虫(ネコブ線虫・ネグサレ線虫)
	堆 肥	pH・EC・硝酸態窒素・アンモニア態窒素・炭素・全窒素・りん酸・加里・石灰・苦土・鉄・マンガン・銅・亜鉛
	水 耕 培 養 液	重炭酸・鉄・マンガン・銅・亜鉛・ホウ素・モリブデン

土壌分析項目の説明

硝 酸 態 窒 素	畑作物が好んで吸収する窒素。即効性の窒素。過剰になると病気や障害になりやすい。
アンモニア態窒素	水稻・茶などが好んで吸収する窒素。畑ではアンモニア態から硝酸態窒素へ変化する。
可 給 態 窒 素	作物が吸収できる無機態窒素に成りうる窒素。地力窒素、有機態窒素とも呼ばれる。
全 窒 素	土壌に含まれる全ての窒素。作物が吸収できない有機物なども含まれる。
腐 植	土壌に含まれる有機物のことで、土壌の物理性、化学性、生物性を良好にするための指標。
C E C	土壌が肥料を保持する能力を示す指標。塩基(石灰・苦土・加里)の基準値の元となる。
りん酸吸収係数	土壌がりん酸を固定する程度を示す指標。りん酸吸収係数が1500以上の土壌ではリン酸が固定しやすい。
可 給 態 ケ イ 酸	水稻はケイ酸を好んで吸収するため、水稻にとって必須元素でありまた窒素の10倍以上ケイ酸を吸収する。
可 給 態 鉄	呼吸や光合成に関係する酵素の成分。銅・マンガンの過剰により鉄の吸収が阻害され、鉄欠乏が生じる。
交換性マンガン	葉緑素の生成、光合成を促進する。また呼吸に必要な酵素の作用を促進し窒素の代謝、炭水化物の同化及びビタミンCの形成に関与する。
亜 鉛	植物体内の各種酵素の構成成分。葉緑素、生長促進物質の生成に役立つ。
銅	各種酵素と結合し葉緑素の形成、タンパク質の代謝、傷の保護作用に関与する。
ホ ウ 素	細胞分裂、糖の移動、炭水化物の合成に関係する。欠乏すると生長点に障害が起き、特にアブラナ科作物は芯ぐさを起こす。
仮 比 重	土壌の重量で1mlあたりの重さを示す。土壌は採取し乾燥させないで搬入する。
三 相 分 布	土壌は、固体(土そのもの)、水、空気構成され、それぞれ、固相・液相・気相といい、各容積の割合(%)を三相分布という。土壌は採取し乾燥させないで搬入する。
線 虫	土壌中の雑線虫とネコブ線虫、ネグサレ線虫の検定。土壌は採取し乾燥させずなるべく冷やして搬入する。